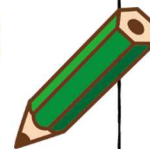


実施報告

子どもと保護者で一緒に学ぶ

読書感想文の書き方



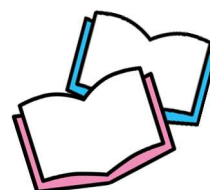
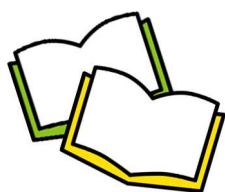
講師：NPO法人マナビエル

志田千帆さん、松田美紀さん、福地朋子さん、平光幸代さん

日時：令和7年8月18日（月）13：00 ～ 15：45

対象：小学校3年生～6年生の子どもとその保護者12組

場所：大阪市立中央図書館 5階 小会議室・中会議室



読書感想文の書き方のコツ = 気持ちを表現するコツ

読書感想文、夏休みの宿題で、苦手だった方も多いのでは？

子どもに「書きなさい」とは言うけれど、そういえば自分も苦手だった…、子どもがうまく書けなくて困っているけれど、なにをどういうふうにアドバイスすればいいのかわからない…。子どもが書いたものを見てみると、本のあらすじだけを書いてあったり…。

今回、そんな読書感想文について、保護者は『子どもの“気持ち”を導き出す方法・“表現する力”を育てる方法』を、子どもは“本を読んで思った（感じた）こと”を自分の中から『拾い上げる方法・ことばにして表現する方法』を学ぶ講座を行いました。



読書感想文の目的

うつくしい文章を書くことや、成績につなげることが目的ではありません。また、正解も回答ありません。読書感想文は、読書のたのしさを知り、本に親しみ、身近なものとしてもらうこと、また、感想を書くことを通じて「思考」や「自己の表現」の力を育てるものだと言われました。



自分の気持ちを知り、ことばに

読書感想文は、本を読んで自身が思ったことや感じたことを自由に書く作文です。でも、子どもは自分が感じた気持ちを「これだ」とすくいあげて「こうだ」と、ことばで説明することにまだそんなに慣れていません。そんな子どもたちの「気持ちをことばにする」手助けの方法、「表現の力」を育てる方法を学びました。

「自分のこと」を「ことば」で「伝える」こと、表現力の大切さ

子どもの表現力を育てる方法を学ぶ前に、まず、『どんなときに“自分のことを伝えることが大事”だと思いますか?』ということ、参加した保護者のみなさんで話し合ってもらいました。

発表では、「夫婦で話すとき」「両親と話すとき」などなど、人間関係を円滑にするための場面が多くあがりましたが、その後、子どもたちはこれから受験や就職活動など、自分について話し、アピールが必要となるさまざまな場面に出会うこととなり、そのときに向けて、子どもの頃から自分のことをことばで伝える表現力を育てる必要があるのだというお話しを受け、認識を深めていました。

子どもの表現力を育てるには… ちょっと待って、その『ダメ出し』

子どもの表現力を育てるには、子どもとの『かわり方』が重要であると教わりました。

NGとして紹介された身近な例として、『「ちがうって」「そうじゃない」「そこはこうでしょ」「もっときれいに字を書いたら?」なんて、ダメ出ししていませんか?』の講師の言葉に、参加した保護者の方々は口々に「言ってるわ〜…」とこぼしながら苦笑いしたり、バツが悪そうな顔をしたり…。身に覚えがありすぎる、といった雰囲気でした。

ダメ出しで否定されると、子どもは「どうせ否定されるし…」「どうせ直されるし…」と、自分の気持ちを出すことをためらうようになってしまいます。

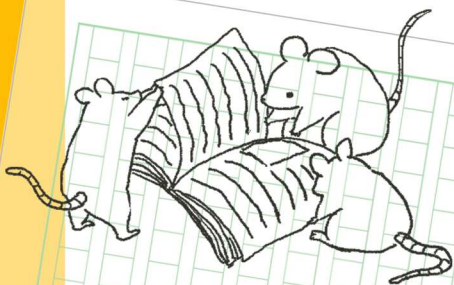
『否定』は、子どもの自己肯定感を下げ、表現力の発達も妨げるとのこと。

良かれと思ってのことかもしれませんが、まずは最初のひとことが重要、『ダメ出し』をグッとこらえることが第一歩と学びました。



『受け取る』だけで自己肯定感アップ!

子どものことばを「そうなんだ」「そう感じたんだね」とそのまま受け取るだけでも、子どもの自己肯定感はあがり、自信につながることで、また、何よりも自信をつけさせることが大切だと学びました。



『問いかけ』で、もっと子どもの気持ちを引き出そう

子どものことばに、疑問に感じたり、わからないことがあったときは、「わからない」と伝えるのではなく、「それってこういうこと?」と問いかけることで、子どもの伝えたいことを掘り下げたり、なかなかことばが出てこない子には、「ここ、私はこう思ったけど、〇〇はどう思った?」というように問いかけてみたり、『問いかけ方』がポイントであるとレクチャーを受けました。

焦点をしばって自分の気持ちを見つける

子どもたちは、ワークシートの設問に答えながら、自分の気持ちを見つける方法を学びました。

「どこのシーンが好きか?」「そのシーンでどう思ったか?」「どうしてそう思ったのか?」「そのシーンとき、自分ならどうするか?」など、ひとつの場面から掘り下げていくことで、子どもたちは考え込みながらも、すこしずつ自分の気持ちを拾い上げて、懸命にことばにしていました。

うまくことばにできない子には、講師がやさしく問いかけを重ねることで、話しながらことばを引き出し、読書感想文を書き上げていました。

学んだことを実践!親子で発表会

講座の最後に、ワークシートを使って書いた読書感想文を、子どもが保護者に読み上げて発表し、保護者は講座で学んだ『かかわり方』を意識しながら聞く『親子で発表会』を行いました。

最初は恥ずかしそうに読んでいた子どもも、保護者が笑顔でうなずきながら聞いてくれることで、次第に笑顔になりながら読み上げていました。

保護者も、いつもは言ってしまうダメ出しをグッとこらえ、やさしく問いかけることで、子どもたちがいきいきと答えてくれることに嬉しそうにしている姿が印象的でした。



参加者アンケートより



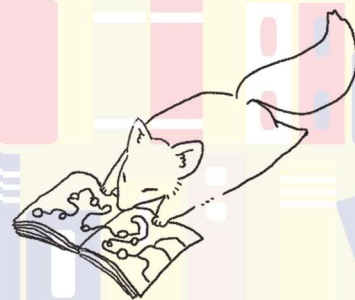
保護者の声

- ・作文の書き方だけでなく、子どもとのかかわり方まで教えていただき、考えさせられました。
- ・講座の内容がわかりやすく、私もですがことばで自分を伝えることは大事だなと思い、子どもの気持ちを聞くことをしていきたいです。
- ・「読書感想文」というテーマが私にとってはとてもポイントでした。
自信さえもたせることができればなんとかなるかも、と少し気持ちが楽になりました。
- ・自分自身が作文が苦手で本を読むのが苦手でした。
子どもが作文に困っている様子があったので、思いきって参加しました。
ほめてもらえてうれしそうだったし、書くポイントが少しわかったのかと感じました。
- ・とても丁寧に教えてもらったので、参加できてよかったです。
- ・ワークブックがあれば以前よりは少し書きやすくなりそう。
- ・子どもとのかかわり方について、とてもよい勉強ができました。
- ・子どもと分かれての講座に少しびっくりしましたが、内容をお聞きしてなるほど！と思いました！
よい時間になりました。
- ・自分の子どもとのかかわり方を見直せました。



子どもの声

- ・時間があっというまにかんじて、楽しかった。
- ・先生むずかしいかんそう文が先生のおかげで、できました。
- ・すごくおもしろかったです。
- ・頭がショートするくらい考えた！！自分の考えをお母さんに発表できて楽しかったです。



【 この記事に関するお問い合わせ先 】

大阪府教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習担当

電話：０６－６５３９－３３４８

FAX：０６－６５３２－８５２０